

“どらやきさん” の子育て

2歳くらいまで住んでいた地域では、その頃夫の帰りが遅かったので、いわゆる「ワンオペ育児」でした。近くに親戚もいなかったのも、最初は頼れる人もいませんでしたね。0歳のころの息子は、私は特に違和感がなかったのですが、知人からは「他の子とちがうね」と言われることがありました。0歳児にしては大人しくて、集中して絵本を見ていたり、数字に興味があったので、「賢い子」と言われることもありましたね。ただ、10か月になっても寝返りができなかったので、保健師さんの紹介で、病院が運営している子育てサロンに通うことになりました。この時期は、夜寝てくれないのが悩みでした。夜泣きをすることも多く、近隣の方から白い目で見られることもありました。車に乗ったら寝てくれるので、慣れない土地で車を運転する時期がありました。通っていた病院からは眠れるように薬を出してもらっていて、主治医から「昼寝はさせなくてもいい」と言われたので、2歳すぎには昼寝をしていませんでした。知らない場所が苦手な、建物に入ってすぐに泣きだすこともあったので、外出時には気を使いました。保育所を利用していなかったため、日中は親子2人で過ごす時間が長く、常に周囲に気を使いながら生活していました。このような経験が続いていくうちに、「やっぱり、うちの子は周りの力を借りて育てていかなければならない」と思うようになりましたね。この時期、支えになってくれたのは、病院のスタッフの方々でした。子育てで分からないことを教えてくれる人がいること、日中の居場所があることが救いとなっていました。この時期の子育てはとにかく「孤独」でしたね。

転居先は、自然が多く人口も少ないところで、まさに“田舎”って感じのところでした。転居してすぐ、近所の方々に挨拶に行ったときに、「子どもがいるので・・・」と伝えたところ、「全然大丈夫ですよ！」と言ってくれたのが本当にうれしかったです。土地柄なのか、人も生活ものんびりしていて、それがとても良かったです。周囲の目を気にせず、親子で散歩をしたり公園で過ごすことができ、充実した時間を過ごせていたと感じます。この頃すでに、発達障がいの診断を受けていたので、入所予定の幼稚園には、診断名のことを伝えていました。幼稚園での生活は比較的安定していて、日々の生活や行事などはそれなりにやれていました。先生方も特性をよく理解してくれていて、事前に丁寧に説明してくれたり、いろいろ配慮してくれました。以前は、相手に気を使うので、子ども同士で遊ばせることはしなかったのですが、「うちの子もこんな特性があるから・・・」と親同士で話すことができたので、家を行き来する機会ができてとても有難かったです。しばらくすると、幼稚園の先生から、「子育てで悩んでいる保護者がいるから、相談に乗ってあげてほしい」と言われるようになり、少しでも力になればと協力するようになりました。

この時期は、私が子どもの特性を受け入れていたこと、周囲に発信していったことで、理解者が増え、安心感が持てるようになったのだと思います。人口は少なかったけど人付き合

いは増えて、この頃は「孤独」だとは思わなかったですね。転居前の子育てがつかったので、その反動もあると思うんですけど、この頃の子育ては、困りごとが思い出せないくらい楽しかったです。

次の転居先は、就学やその後の生活を見据えて、親戚が近くにいる十勝を選びました。芽室に決めた理由は、子育てに力を入れている町をネットで検索してみたら、芽室町がヒットして興味を持ったからです。芽室は帯広に近く利便性が良いので、本人も喜んでいました。でも、園の子どもの数が多いことに少し戸惑いました。子どもも、最初は人が多すぎて疲れていましたね。やるべきことが決まっていないと不安になるタイプなので、自由時間が多いと戸惑っていたようです。

当時は買い物に連れていくときにすごく気を使いました。触感が好きなのか、スーパーでこんにゃくとかをすぐに触ろうとするんです。買い物を経験させるのは社会勉強になると分かってはいるのですが、連れて行く気にはなれませんでしたね。曖昧なルールで困ることも多くて、「知らない人にはあいさつしない」って教えるんですけど、「知らない人」に当てはまるのは誰なのか、はっきり線引きされないと本人は行動に移せないんです。あと、だれに丁寧な言葉を使えばいいのかも判断しにくいようで、結局、挨拶はできたとしても小声になっちゃう。親としては大きな声で元気に挨拶してほしいし、ちゃんと躰けてますよって言いたいんですけどね。

小学校に入ってから、毎日時間割でやることが決まっているので、日中は過ごしやすくなりました。友だちとの関わりが増えたのですが、自分の気持ちを言葉で伝えられなくてトラブルになることも増えました。入学前は、子ども同士のトラブルがあっても、親が間に入って解決できていたのですが、入学後だとそうもいかない。コミュニケーションの中身が課題だということが分かってきました。将来のことも深く考えるようになりましたね。この時期の子育ては、将来に向けての「基盤づくり」だと思っています。

